

経営比較分析表（令和4年度決算）

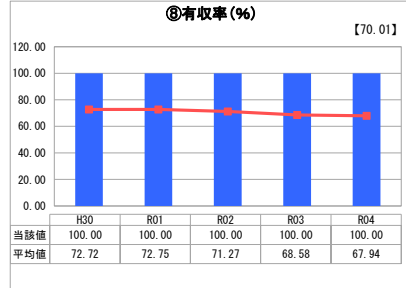
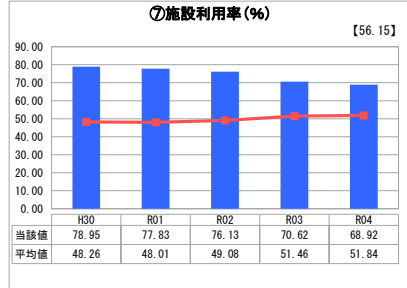
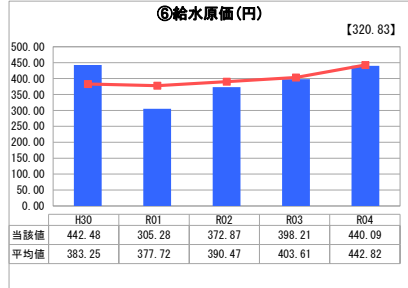
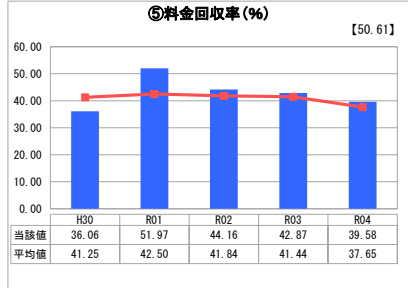
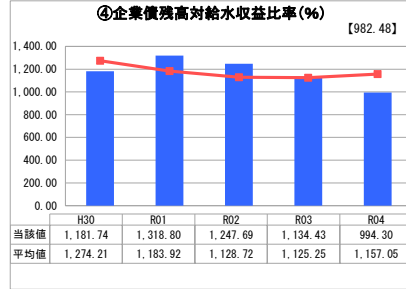
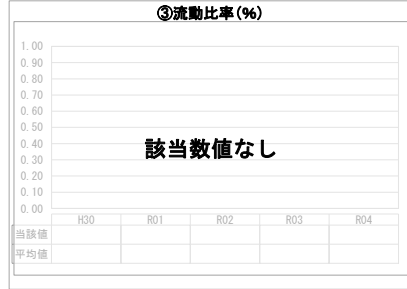
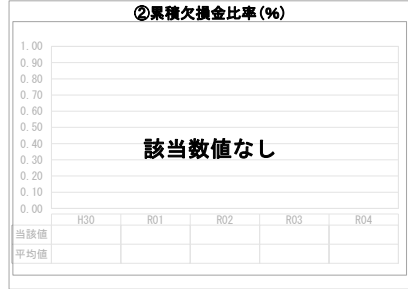
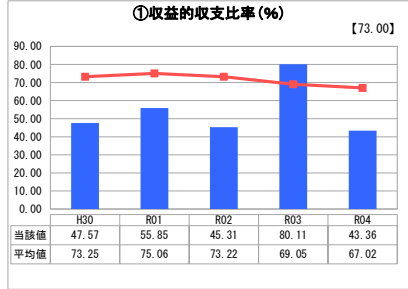
岡山県 西栗倉村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	99.34	3,300	

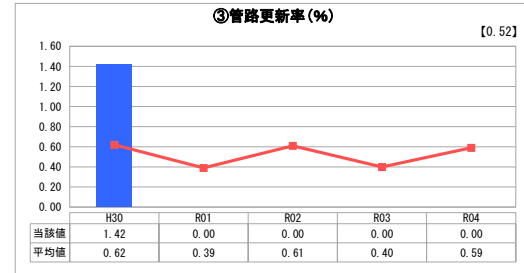
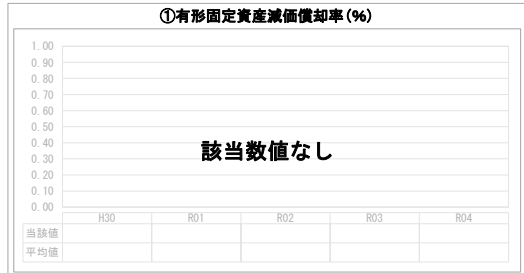
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,368	57.97	23.60
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,346	0.61	2,206.56

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性について、①収益の収支比率から見られるように実質赤字経営となっており、経営の改善が急務と考える。実質地方債還金分が赤字となっている。平成27年度から5ヶ年での施設更新に係る地方債の償還により、経営改善をしなければ赤字経営が続く見とおしとなっている。

④企業債残高対給水収益率は、類似団体と比較して低くなっているが地方債の償還により残高が減少しているに過ぎない。給水水準について、⑤料金回収率、起債の償還については料金で賄われている状況ではないため、適切な料金収入の確保、検討が必要と考える。

費用の効果性について⑥給水原価から類似団体と比較しほぼ同様となっているが、電気代の高騰や物価高の影響により増加傾向にある。

施設の効果性について、⑦施設利用率から類似団体と比較して効果的に給水できているが人口減少により利用率が減少傾向となっている。

以上より、類似団体と比較した場合現状において費用及び施設の効果性は高く、経営にあった施設規模であると考えられるが、今後老朽化した施設の更新を行っていくことで効率が悪化する可能性が高いため経営改善が必要である。

2. 老朽化の状況について

昭和60年から順次供用開始しており、供用30年以上が経過している。浄水場施設について、平成27年度から順次機器等の更新を計画、実施している。

管路について、耐用年数の40年を超えるため、令和7年度以降までに計画的に更新する必要がある。平成28年度より、老朽化した管路の更新を行っている。

水道メーターについて、令和6年度に検定満了となるメーターの更新を行う必要がある。

全体総括

今後は施設の老朽化の状況から、施設の更新費用が増加する。

令和4年度も繰入を行っており実質赤字経営であるため、料金の見直しを含めた経営改善・経営計画を行う必要がある。